

国際ロータリー第2580地区 第61回 インターアクト年次大会
大会テーマ：One world, many stories とともに生きるゆいま～る

期 間		2026年7月31日（金）～8月2日（日）	
日 目	時 間	スケジュール	備 考
Ⅰ日目 7/31（金）	6:30	羽田空港集合	
	8:05	羽田空港発（JAL905便）	✈2時間35分
	10:40	那覇空港着 荷物受取り 観光バスにてアメリカンビレッジへ移動	✈50分 会場①
	12:00	アメリカンビレッジ 散策 ※グループ行動 グループにて昼食	
	16:25	グループでBBQ会場集合場所へ移動	徒歩 3 分
	16:30	北谷公園サンセットビーチにてBBQ	会場②
	18:30	北谷出発 観光バスにてホテルへ移動	✈50分
Ⅱ日目 8/1（土）	19:30	ホテルチェックイン パシフィックホテル沖縄	会場③
	7:30	朝食	パシフィックホテル沖縄 会場④
	8:50	開会式会場集合 万座の間	
	9:00	登録受付開始 各校ごとに写真撮影（～9:50）	
	10:00	開会式 各校活動報告	
	12:00	昼食	
	13:30	講師による講話 ワークショップ	
	17:00	閉会式 17:30頃終了予定 全体写真撮影	
	18:00	懇親会開始	
Ⅲ日目 8/2（日）	19:30	懇親会終了	
	7:30	朝食	
	8:45	ホテルチェックアウト ※荷物はホテルにて預かり	
	9:00	コース別那覇散策 ※グループ行動 グループにて昼食	①首里城コース ②公設市場コース ③壺屋やちむんコース ④福州園コース
	12:30	モノレールにてグループで空港へ移動	
	13:00	那覇空港集合 3階JAL出発カウンター前 チェックイン	各自荷物受取り
	15:25	那覇空港発（JAL914便）	✈2時間35分
	18:05	羽田空港着	解 散

※時間は多少変更になることがあります。ご了承ください。

主な会場案内

1日目

①アメリカンビレッジ

〒904-0115 沖縄県中頭郡北谷町美浜

<https://www.okinawa-americanvillage.com/>



沖縄本島中部・北谷町にある「美浜アメリカンビレッジ」は、米軍基地跡地を活用したリゾートタウンです。アメリカ西海岸の街並みをイメージした約40万㎡の敷地に、ショッピング・グルメ・映画館・ホテルなどが並び、昼も夜も楽しめる沖縄県北谷町を代表する人気観光スポットです。アメリカ西海岸の街並みをイメージしたカラフルな建物が立ち並び、ショッピングやグルメ、エンターテインメントが楽しめる複合施設として、多くの観光客や地元の人々に親しまれています。

異国情緒あふれる街並みを散策しながら、沖縄ならではの開放的な雰囲気を感じることができるほか、周辺にはサンセットビーチや北谷公園があり、美しい海と夕日を楽しめる絶好のロケーションです。

②北谷公園サンセットビーチBBQ会場

〒904-0115 北谷町字美浜2

<https://churahama-t.com/archives/27791249.html>



北谷町サンセットビーチは、美浜アメリカンビレッジに隣接する人気のビーチで、その名のとおり、美しい夕日を望める景勝地として多くの人々に親しまれています。青く澄んだ海と白い砂浜、穏やかな波が広がり、沖縄らしい自然を身近に感じることができる憩いの場所です。

③パシフィックホテル沖縄

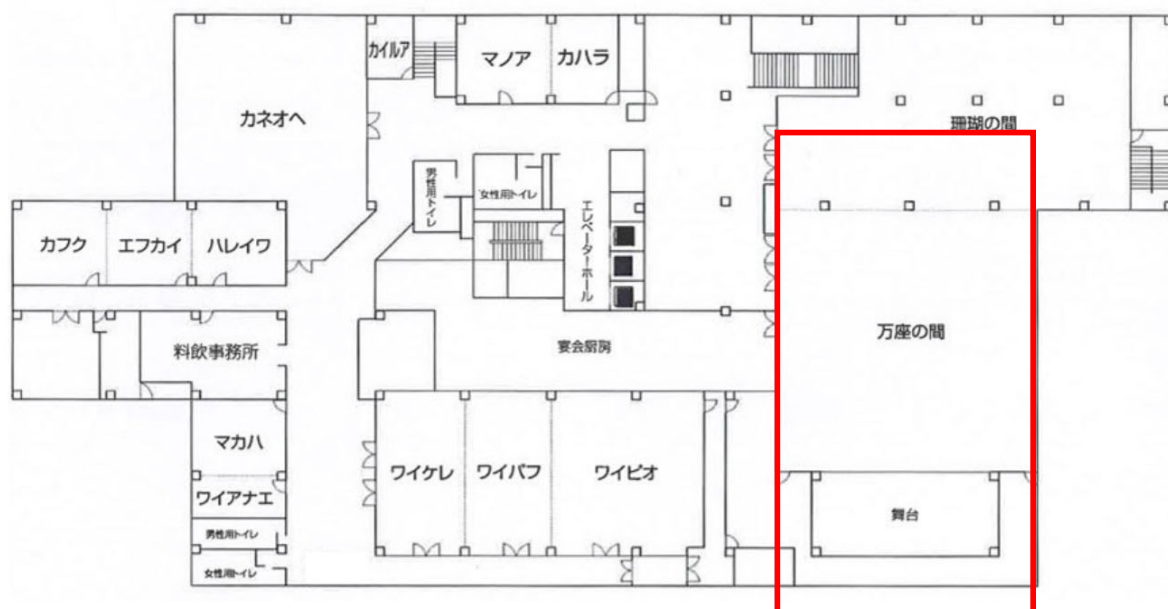
〒900-0036 沖縄県那覇市西3-6-1

<https://pacifichotel.jp/>



2日目 ④パシフィックホテル沖縄

2階 万座の間



3日目 ①首里城コース

9:00ホテル出発→徒歩にて旭橋駅へ→9:30モノレールにて首里駅へ
→9:40徒歩にて首里城公園へ→首里城見学（昼食）→12:00徒歩にて首里駅へ
→13:00モノレールにて那覇空港着

首里城公園管理センター

〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町1-2

TEL：098-886-2020 FAX：098-886-2022

<https://oki-park.jp/shurijo/>



首里城は、琉球王国の幾多の興亡を伝える歴史の証人。琉球の島々を治め、中国、日本、朝鮮、東南アジアの国々と外交、貿易を展開した首里王府の司令塔として、王とその家族等が住み、華麗な王朝文化に彩られた空間でした。琉球王国は、1492年から1879年までの450年間にわたり存在した王制の国でした。その王国

②公設市場コース

9:00ホテル出発 徒歩にて県庁前駅へ→9:25ブルーシール→9:55国際通り散策
→11:00公設市場（昼食）→12:15牧志駅→13:00モノレールにて那覇空港着

第一牧志公設市場

沖縄県那覇市松尾2-10-1 電話・FAX：098-867-6560

<https://www.makishi-public-market.jp/>



第一牧志公設市場のはじまりは、戦後間もない頃に開南バス停付近に自然発生的に闇市がたち、1950年にそれらをたばねた那覇市営の牧志公設市場として開設されました。

1969年に第二牧志公設市場が開設されたのをきっかけに、牧志公設市場から第一牧志公設市場と改名されました。

1972年の沖縄の本土復帰の年に建て替えが完成し、市民・県民の台所として親しまれてきました。

1982年の平和通りのアーケード完成もあって、第一牧志公設市場を中心としたマチグワーは多くの県外や外国人の観光客にも人気のエリアとなりました。

1990年にはシンガポールなどアジアの食堂などをモデルとして、一階の店舗で購入した食材を二階の食堂で調理し食べることができるサービス。いわゆる「持ち上げ」のサービスを開始。実際に店舗で目にした食材を購入し沖縄料理として味わうことによって、より深く沖縄文化への理解とより親しみを持った文化交流としての面も生まれました。

2000年代に入ると施設の老朽化などに伴う調査などをもとに施設の建て替えが検討され、2019年に仮設市場へ移行。周辺の商店街なども含めたマチグワーの商業や文化交流のための中核となる施設として、4年の歳月を経て2023年3月に新しい第一牧志公設市場が誕生しました。

③壺屋やちむんコース

9:00ホテル出発→徒歩にて移動→9:40壺屋やちむん通りへ→10:00壺屋焼き物博物館見学
→11:15国際通り散策（昼食）→徒歩にて牧志駅へ→13:00モノレールにて那覇空港着

昔ながらの風景が残る「壺屋やちむん通り」

<https://tsuboya-yachimun.com/>



壺屋は、沖縄戦の戦禍を免れた貴重な地域で、戦後の那覇復興が始まった場所ともいわれています。石畳や古民家、登り窯などには戦前の面影が今も息づき、焼き物の町として育まれた歴史と文化を感じられる街並みが広がっています。訪れる人々に、沖縄の記憶とぬくもりを伝える歴史ある通りです。

那覇市立 壺屋焼物博物館

〒902-0065 沖縄県那覇市壺屋1丁目9番32号

TEL.098-862-3761 FAX.098-862-3762

[那覇市立壺屋焼物博物館](#)



古い記録によれば「壺屋焼」は、西暦1682年—沖縄が「琉球」と呼ばれていた時代のことであり、当時の政府が焼き物産業発展を目的として、現在の那覇市壺屋の地に焼物の里をつくったことに始まるとされています。沖縄戦の時期を除けば、焼物を焼く炎を絶やすことがなかった窯場が壺屋であり、300年以上の歴史を持つ沖縄の代表的な焼物が「壺屋焼」です。

戦前の壺屋は、那覇市の中心からはなれたところにあったため、戦争の被害をあまり受けませんでした。そのため、石垣に囲まれた昔ながらの道や登り窯などの文化財が当時に近い形で残されています。そして、道ぞいには焼物の工房や、その販売店が見られます。伝統の形と新しい街の姿がともに見られる情緒あふれる街並み、それが壺屋です。

④福州園コース

9:00ホテル出発→徒歩にて福州園へ→9:45福州園見学→11:00徒歩にて国際通り散策（昼食）
→徒歩にて牧志駅へ→13:00モノレールにて那覇空港着

福州園

沖縄県那覇市久米2-29-19 TEL098-943-6078

<https://www.fksn-okinawa.jp/>



福州園は、中国福建省福州市と那覇市の友好都市締結10周年と、那覇市市制70周年を記念して、1992年に開園しました。福州市と那覇市との関係は、日本史では鎌倉時代である、14世紀に遡ります。

そのころの琉球王国は、大貿易時代を迎え、大いに繁栄していました。

その繁栄を支えたのが、福建省から移住してきた久米村（クニンダ）の人々でした。

クニンダの人々は、通訳や航海術などの専門技術を持ち、その後の琉球王国の教育にも大きな影響を与え、琉球初の公立学校「明倫堂」もこの地に設立されました。

福州園のある那覇市久米は、まさにクニンダがあった場所です。